

ポタリーペインティングの説明

ポタリーペインティングとは？



ポタリーペインティングはアメリカで生まれた新しいタイプの陶芸絵付けです。白い素焼きの陶製生地「ビスク」に陶芸専用下絵具「アンダーグレイズ」で水彩画のように絵を描いて、透明の釉薬をかけて約 1,000 度で焼いて仕上げます。

陶磁器の絵付けの歴史

陶磁器の起源は古代文明にまでさかのぼることができ、陶磁器は複雑なデザインやパターンで装飾されていました。陶磁器画の歴史は紀元前 6000 年頃のエジプトにまでさかのぼり、土色を用いたシンプルな文様で陶器に彩色を施していました。時が経つにつれて、陶磁器の絵画技術が進化し、ギリシャ人や中国人などの文明は、陶磁器を塗るためのより洗練された方法を開発しました。青磁や白磁、イタリアのマヨルカなどの伝統的な陶磁器は、何世代にもわたって受け継がれています。陶磁器の絵画の歴史は、技術の進歩や新素材にも影響され、さまざまなスタイルや技法を生み出してきました。

日本では白い磁器に絵付けを行うスタイルが有名で石川県の九谷焼が有名です。



古代エジプトの絵付け陶器



13 世紀イタリアのマヨルカ焼き



中国甘肅省の紀元前の絵付け陶器



江戸時代後期の九谷焼

陶芸絵付けの種類

下絵付け

陶磁器は、粘土を成形し素焼きをした後に釉薬をかけて本焼きをして陶磁器を作ります。釉薬をかける前の素焼きした器の表面に下絵の具という顔料で絵付けすることを『下絵付け』（したえつけ）といいます。絵付けした後に釉薬をかけて本焼きをして完成になります。釉薬の下に絵があるので下絵付けと呼ばれるのです。ポタリーペインティングは下絵付けになり、素焼きの器に下絵具で絵付けをします。ポーランドの有名な陶磁器のポーリッシュポタリー（ボレスワヴィエツ陶器）が有名です。



ポーリッシュポタリー

上絵付け

釉薬をかけて焼成した陶磁器の表面に、絵柄を施すことを「上絵付け（うわえつけ）」といいます。釉薬をかける前に絵柄を施す「下絵」に対して、釉薬の層の上から描くため「上絵」といわれます。チャイナペインティングやポーセラーツもこのジャンルに含まれるクラフトです。日本では、赤、黄、緑、黒、青、紫、金などで彩色され、「色絵」「赤絵」「錦絵」などと呼ばれることもあります。日本でいち早く技術が伝わっていた有田では、鍋島の重要な産業であったために、藩によって技術の流出が防がれてきましたが、江戸時代には瀬戸をはじめ日本各地に技術が広がりました。



鍋島焼

ポタリーペインティングの制作工程

STEP.1

デザインを考える

絵付けのデザインを考え、紙にデザインを描いていきます。



STEP.2

下絵を描く

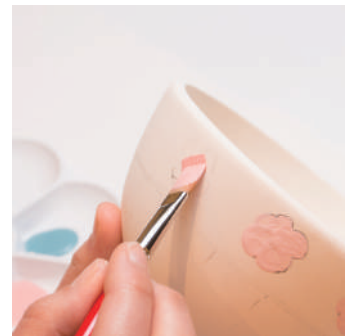
ビスク（素焼き生地）に鉛筆で下絵を描きます。



STEP.3

絵付けをする

ビスクの下絵にそって下絵具（グレイズ）で絵付けをします。



STEP.4

釉薬をかける

絵付けが完成したら透明の釉薬を全体にかけます。



STEP.5

本焼きをする

窯の中に入れ約 1,000℃で 1 日かけて焼成し、1 日かけてゆっくり冷まします。



STEP.6

完成

発色が良い色彩豊かなポタリーペインティングの陶器の完成です。

